

ひとを結ぶ。
まちを結ぶ。
column
No.77
地域おこし協力隊

大都市圏から地方へ人の流れを作り、将来の定住を目指しながら、地方の活性化への貢献を目指すプログラム「地域おこし協力隊」。市で活動する7人の隊員たちの活動を紹介します。今回の3人は、3年間の任期を終え3月末で卒業します。
【問】市観光課 (☎ 77・8563)



【写真②】若藤の断髪式



【写真①】力士若藤乙松肖像

今回は、柳川出身の地方力士の肖像写真を紹介します。しこ名は「若藤」、本名は堤乙松です。明治28年10月生まれで、昨年引退した琴奨菊関と同じ佃町の出身です。写真①の大銀杏に羽織袴姿の写真は、細工町にあった野片写真館で撮影されたもので、明治の終わりから大正初め頃のものと思われる。写真②は、所蔵者の堤洋子さんによると、若藤の断髪式です。若藤の向かって左側にはさみを持った人物が立っていて、三方が据えられています。これが30歳代前半だとすると、大正末から昭和初期ぐらいに撮影されたものではないでしょうか。ここで注目したいのが、数人が着ている法被の襟にある「柳河相撲協会」の文字。柳河藩のお抱え力士だった第10代横綱の雲龍久吉は、明治9年に皿垣村の小松嶋喜三次に筑後国での相撲興行権を許可している、市内にある喜三次の墓碑には柳河相撲協会力士として52人の名前が刻まれています(「雲龍久吉物語」)。

力士の肖像 市史編さん係 江島香

「筑後相撲協会」という団体が確認できます。両者の関係は不明ですが、筑後相撲協会は昭和9年5月に七ツ川という協会幹部の引退披露相撲を開催しており、こうした団体によって柳川の相撲興行が行われていたのです。明治から昭和にかけての柳河新報の記事からは、東京相撲などの興行が高畑公園で行われていたことが確認できます。大正6年10月に柳川で開催された東京大相撲には、大和町皿垣出身の大潮という力士が参加しました。こうした東京相撲の地方興行だけでなく、地方力士による相撲も行われていました。例えば、大正8年5月に大和町塩塚の出身の力士「若桜」の追善相撲が、眞勝寺で行われています。若桜は「九州角力頭取」という肩書がありますが、先述した柳河相撲協会の力士として、若藤と共に名前が確認できます。この相撲には数千人の人が訪れていて、相当の集客力があつたことが分かります。こうした地方での裾野の広がりがあって、現在の相撲人気は支えられてきたのでしょう。

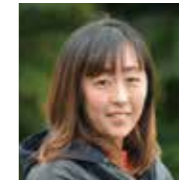
市史編集委員会では、数年後に写真を中心とした本を刊行する予定です。現在さまざまな写真や絵はがきなどを集めています。隔月1日号に、同委員会で集めた写真を紹介します。
【問】市生涯学習課市史編さん係 (☎ 72・1275)

卒業 未来につながるアイデアを



柳川らしさをモチーフにした新商品を開発

私が柳川に来た頃は海外からの観光客が多く、多言語での情報発信やプロモーション活動など国内外へ向けてのPRに取り組みました。外に向けての発信と、地域の魅力を掘り起こす着地型観光「ゆるり旅」に携わり、手応えややりがいを感じながら活動していました。しかし、新型コロナで状況は一変。



平原 真紀子 (43歳)

【プロフィール】市観光課に所属。着地型観光事業や観光振興・誘客支援事業を担当

そんな中、新しい商品を企画し、今までとは違った形で柳川の魅力を発信しようと考えました。柳川ならではの観光資源をモチーフにして、手にとった人がほっこりするような温かみのあるコーヒーのドリップパックやあめを作りました。アイデアを形にすることで新たな交流人口を生み出し、地元の方にも素晴らしい観光資源を再確認していただけるきっかけとなればうれしいです。

卒業 ありがたいご縁の3年間



つばめ学級のロゴマーク

地域おこし協力隊としての3年間、たくさんの人と出会い、いろいろな経験をしました。川下りの船頭、両開ぶどう、燈明、海苔、つばめ学級と挙げれば

切りがないです。関わった皆様本当にありがとうございました。引き続きこのご縁を大切にしたいと思います。つばめ学級には、柳川市とみやま市から児童



吉川 雅俊 (36歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川観光の未来を担うマルチプレーヤーを担当

約100名が参加。児童にアンケートや申込書で「夢・なりたい仕事」を聞きました。警察官やお菓子屋さんなど夢はさまざま。でも、残念なことに誰一人として「船頭さん」と答える児童はいませんでした。田中吉政公から続くお堀が職場の船頭さん。子どもたちにとって魅力的で柳川を代表する仕事になるよう、少しでも協力できればと思います。

卒業 柳川で過ごした3年間



新たに開発を進めているあまおうスムージー

地域おこし協力隊としての任期は残り1カ月。よそ者である私を快く受け入れていただき、とても感謝しています。ありがとうございます。

柳川の魅力、それは川下りや食文化など、地域にある「当たり前」のものだと思います。旅行で知らない土地に行ったときに体験する食文化の違い



遠藤 大輔 (27歳)

【プロフィール】市観光課に所属。柳川観光の未来を担うマルチプレーヤーを担当

や方言などは新鮮で魅力を感じますよね。私が特に大好きな柳川の魅力に食があります。昨年秋、期間限定で柳川産の巨峰を使ったスムージーとソーダをむつごろうランドで販売しました。今度は、今が最盛期のあまおうを使ったスムージーを開発中です。当たり前への付加価値の付け方が、柳川の魅力アップにつながると思います。